

米国マサチューセッツ大学アマースト校との研究ワークショップを開催

10月21日（月）～23日（水）の3日間、本学の戦略的国際研究パートナー校である米国マサチューセッツ大学アマースト校と、研究者マッチングのためのワークショップを開催しました。これは、10月初めにアマースト校のローラ・バンデンバーグ研究・外部連携担当理事、カルペン・トリヴェディ国際担当副学長、マイケル・フォックス自然科学研究院長が来札したのに合わせて計画されていたもので、両校で共同出資する「HU-UMA共同研究シードファンド（仮称）」を立ち上げるにあたり、複数分野の研究者が繋が

りを得る契機として開催されました。

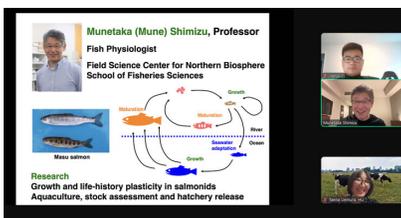
両校の共通関心分野として、「先端材料と応用生命科学」「再生可能農業と持続可能性」「人文学と社会」という大きな枠組みの3分野で開催されたワークショップは、バンデンバーグ理事による趣旨説明を経て、本学先端生命科学研究院から5名、工学研究院から5名、水産科学研究院から2名、北方生物圏フィールド科学センターから1名、スラブ・ユーラシア研究センターから1名、メディア・コミュニケーション研究院から2名、文学研究院から1名が参加し、研究紹介、重なり合

う研究・教育・施設環境の確認、シードファンド申請に係る想定が話し合われました。多様な研究内容ながらも、大きいテーマで繋ぐ異分野融合研究を増やすための方針は、ファンドの枠組みにも反映されます。研究者たちは、両校連携に対する心境、商品開発可能性、「帝政終焉時・後」といった一つの時代設定に基づき広く研究者が集まるバーチャルシンポジウムの今後の開催等を含め期待を語りました。

（国際連携推進本部）



先端材料・応用生命科学のワークショップ



再生可能農業・持続可能性のワークショップ



人文学・社会のワークショップ